

令和7年度 第3回 静岡県立浜松湖南高等学校 学校運営協議会議事録

1 日時 令和8年2月12日(木)

2 場所 静岡県立浜松湖南高等学校

3 委員(敬称略)

渥美和弘(浜松市中央区雄踏協働センター所長)(欠席)

小杉大輔(静岡文化芸術大学教授)(欠席)

坂田雄章(元自治会副会長・元中学校長)

島野知厚(令和6年度PTA会長)

杉山哲也(河合塾浜松校 校舎運営チームチーフ)

松本雅美(ムンド デ アレグリア学校 理事長兼校長)

山下譲(浜松国際交流協会事務局長)

*事務局(学校職員)

神村佳代校長、佐藤敦副校長、山崎一憲教頭、河合宏明事務長

大村浩之教務主任、土屋尚子生徒指導主事、竹内慎司進路指導主事

4 次第

(1) 校長挨拶

(2) 議事

ア 学校の近況についての報告

① [生徒指導主事説明] 部活動

② [進路指導主事説明] 進路

③ [副校長・校長説明] 国際交流(Wrap-Up セミナー、台湾交流訪問)

④ [副校長説明] 令和7年度HAMANAN 探究コンソーシアム実践発表会

イ [副校長説明] 不祥事根絶の取組報告

ウ [副校長説明] 学校経営計画関係者評価

《委員質問・意見》

- ・学力が向上したと考える生徒の割合が86%というのは、湖南高校の生徒と職員がともに頑張っていることを示していて、良い数字である。
- ・総合型選抜の利用希望生徒が増えていることから、総合型選抜と一般選抜に関する指導の違いを意識し、学校の方針の共通理解のもと、生徒に対応することが一層大切になってくると思う。

- ・これまでよりも早い段階から英語の受験勉強に取り組む生徒が増える
と、第一希望に合格する生徒も増えるのではないかと。
- ・「積極的に挨拶ができていない生徒」は、100%になると良い。
- ・「校則等を守り、高校生らしい服装・行動をしている」生徒が98%とい
うのは、できていない生徒が2%いるとはいえ、学校全体としては良
い数字である。
- ・図書館がよく整備されている。
- ・図書館のことをPRできると良い。
- ・年間読書数平均8冊は、よく読書をしていると思う。
- ・メンタルケアがよくできている。
- ・防災については、関心が高いものであり、取組とその成果の外部への
示し方を検討すると良い。
- ・学校の業務が多すぎると思う。やらなくてもよい業務もあるのではな
いか。
- ・学校の業務が多すぎることで、全国的に起きている教員の不幸事にも
つながっていると思う。
- ・業務量が適切であり、教員のコンディションが良好であることが、良
い教育につながり、生徒にとっても良いことになると思う。
- ・部活動において、外部の指導者を配置したとしても、教員がそばにつ
いていなければならないと教員の負担は減らない。外部の指導者に、
責任も含めて、任せられるようになると良い。
- ・私立高校の授業料無償化の影響で私立高校に生徒が流れてしまう可能
性がある。学校の魅力をどうやって発信するかが課題と思う。
- ・海外へ行くことで生徒は変わると思う。
- ・学校全体で国際交流活動に取り組んでいることについて、外部の認知
度はそれほど高くないと思う。
- ・オーストラリア研修に行った生徒の生の声を中学生に届けると、学校
の良いPRになる。ビデオメッセージを作成すると良い。
- ・数値目標を達成できなくても、生徒がチャレンジをして成長できる機
会を提供することが大切である。
- ・探究学習の指導は大変で、難しい部分があると思う。
- ・何か課題を設定して探究するように学校が投げかけたことから生徒の
探究が始まるとしても、自分で課題を探して取り組む中で、気づきを

得られるということが大切だと思う。

- ・生徒が探究に自分でできちんと取り組むことで生徒の力になると思う。
- ・普通科・英語科を問わず、台湾で学ぶことができるのは良い。

(3) 意見交換 「次年度に向けて」

《委員質問・意見》

- ・学校経営計画の評価項目が多すぎるのではないか。
- ・ICTの活用状況など、すでにできていることは、次年度の学校経営計画への記載がなくても良い。
- ・生徒のメンタルケアと防災の取組は、学校経営計画に記載する箇所を別にしたほうが良い。
- ・学校経営計画に教職員の達成感も示すと良い。

(4) 諸連絡